



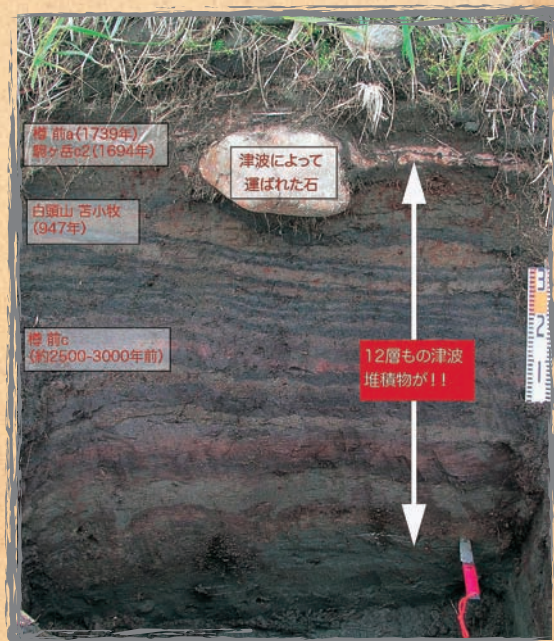
根室半島を襲った 巨大津波の痕跡

根室半島の太平洋沖には千島海溝が東西に走っており、ここではマグニチュード7~8クラスの海溝型地震とそれに伴う津波が発生し、大きな被害をもたらしてきました。

近年、過去に根室半島を襲った巨大津波の痕跡が、私たちの足元に地層として残っていることが(独)産業技術総合研究所との共同調査で分かってきました。これらは、南部沼、別当賀フレシマ、初田牛ガツカラ浜などの太平洋岸側の湿原に見られます。湿地では、泥炭層と呼ばれる植物が混じる黒土層が発達しますが、根室半島の太平洋岸側の湿地では、この黒土の間に数多くの砂層が入っています。この砂は粒がそろい、海に生息する珪藻も見つかっていることから、元々は海浜砂であることが分かります。一度に大量の海浜砂を広範囲にわたり運ぶことができるのは、大きな津波しかないと考えられ、同じ現象が2004年インド洋大津波の被災地でも目撃されています。

これらの砂層は、津波の痕跡を示すことから「津波堆積物」と呼ばれており、驚くべきことに、南部沼では海岸線から2km以上離れた内陸にまで堆積していることが分かっています。

写真は、初田牛ガツカラ浜の湿原断面です。



ここでは、樽前山など4枚の火山灰層と12枚の津波堆積物が確認されました。火山灰は噴火の年代が分かるので、それをもとにすると平均300~350年の間隔で内陸にまで達する巨大津波が、根室半島を襲っていることが分かります。

このような大津波が、最後に根室半島を襲ったのは1600年代の江戸時代のことで、津波堆積物を発生させるような巨大津波が、根室半島を襲う確率は日増しに高まっていることになります。まずは、異常な巨大津波があることを認識し、地震・津波発生時の対応を確認していただきたい思います。

人の動き 平成21年8月1日現在

人口	30,173 人 (-399)
男	14,497 人 (-147)
女	15,676 人 (-252)
世帯	13,139世帯 (+11)
7月の誕生	20 人 (+8)

発行・印刷 根室市役所総務課・根室印刷(株)

■長雨と低温。「今年の夏はどこに行ってしまった」と感じる夏でした。そんな中で、もう秋の気配が漂ってきました。9月は「かに祭り」「さんま祭り」と、多くの観光客を迎えるイベントが開かれます。どこにも負けない秋の味覚を存分に楽しみたいと思います。(T)

編集後記

参加者募集！市政ウォッチングねむろ

市政に対する理解を深めてもらおうと開催します。

- ◆日時 9月13日(日) 10時~15時
- ◆内容 根室十景巡り ◆定員 20人
- ◆参加料 無料 ◆昼食 各自で用意
- ◆申込 9月11日(金)までに下記窓口か電話で申し込みください。
- ◆問合せ 市総務課広報広聴担当
TEL(23)6111 番内線 2213

